東区からひらくさっぽろの未来。

通年型新カーリング場を東区に!!

氷上のチェスといわれ、近年人気の高まる一方のカーリング。

現在札幌でカーリングが楽しめるのは、草分けである美香保体育館と豊平区どうぎんカーリングスタジアムの2カ所だけ。実は、**平成9年に札幌で初のカーリング場が美香保体育館に誕生するきっかけとなったのは、平成8年3月の予算特別委員会での私の提案と再質問でした。**当時はマイナースポーツであったカーリングですが、地元の愛好者たちと事務所近くの新生公園で水を撒いてテントを張ってレーンを手作りしたことを思い出します。

あれから25年余り。愛好者も増え、選手層も厚くなり、本格的な通年型のどうぎんカーリングスタジアムも誕生しました。以来、札幌カーリング協会の顧問を務め、役員・選手の皆さんや愛好者の方々からさまざまな要望を伺ってまいりました。近年はオリンピックなどで日本選手の活躍もめざましく、**愛好者が増加し、観光客や修学旅行生からも予約があり、飽和状態となったどうぎんスタジアムは断ることも多く、選手の練習がままならないほどに。**

小さくても練習するところが欲しい。通年型の2館目があったら。修学旅行生や観光客の皆さんへ指導などができれば。**スポーツツーリズムの時代にあって、私たちも経済の活性化に貢献**する。そんな声を聞いた私は札幌市に提案しました。

スポーツが観光の核となりうる時代です。**札幌市も通年型のカーリング場の新設には前向きな姿勢**を示しているところであり、私は交通の利便性・地域の活性化、札幌市全体のスポーツ施設のバランスなどを考えたとき、丘珠空港があり、地下鉄があり、つどーむがあり、モエレ(R6、硬式野球場供用開始)・さとらんど・百合が原公園といった自然にも恵まれた**栄町周辺が、通年型新カーリング場の整備地として最もふさわしい地域だと確信しています。**

来年度は、丘珠空港周辺を高次機能交流拠点に指定をし、都市機能の集積や地域の魅力向上に、札幌市も取り組む姿勢を見せています。

産業、観光、それにスポーツを加え、それぞれの施設が付加価値を高め、相乗効果によって生まれる街の賑わい。地域の活性化を図るためにも、今熱い視線が集まるカーリングの新たな聖地を栄町・丘珠空港周辺に誕生させるため、全力で頑張ってまいります。カーリングにつきましても、ご理解ご支援をお願い申し上げます。

現役で指導者として活躍する小笠原歩さんと一緒にプレー

競技者同士の信頼が物を言う「絆のスポーツ」

すずき健雄の新たな夢

- **丘珠空港の滑走路延長、路線拡充**
- **空港を中心とした新まちづくり計画の早期策定**
- **地域活性化と魅力アップへ!**

丘珠空港から羽田までジェット機に乗ってみました

「丘珠研究会」が企画したチャーター機に搭乗

東京はこんなに近かったのかというのが、率直な感想です。丘珠空港は東区の自宅から、通勤ラッシュ前の早朝ということもあって、たったの10分あまり。フジドリームエアラインズで9時05分に出発し、10時55分羽田着。

新型コロナウイルスの影響で打撃を受けた航空業界。国内線旅客数は前年比約67%の減少といわれていますが、丘珠空港は前年比約39%の減少にとどまっている。ビジネスや医療面の利用が多いからのようです。

札幌市の試算によると、丘珠空港で道外路線1便が通年で1往復すると、年間約10億円の経済効果が見込まれるといいます。滑走路の延伸や駐機場搭乗機の増設に札幌市は最大350億円(一日当たり30便から70便へ、年間27万人から約100万人)と見込んでいますが国によって事業実施が決定すれば、費用の85%を国が、15%を地方自治体が負担することが航空法で定められています。市は年内に決定し、国に要望する見通しです。

利用する人も支える人も心地よく

介護

まもなく2025年。団塊の世代が75歳以上になると、医療費の増大はもちろん、介護保険の利用も増え、介護人材の不足が一層深刻になります。人材不足による現場の負担増大、サービスの質の低下は避けなくてはなりません。気持ちよく質の高いサービスを受けられるためには、働く人の処遇改善、事業所の負担軽減など、行政の支援が必要です。

高齢者施設の入居者の方々の話を熱心に聞く

保育

仕事と子育ての両立という市民のニーズに応え、札幌市では認可保育所や地域保育事業所が新設されました。しかし、保育士不足は深刻で、園児を受け入れることができず、定員割れの園も。

保育協会の役員の皆さんと私たち保育議員連盟が意見交換をしました。保育士人件費の増額をはじめ、さまざまな要望がありました。

子どもの命を預かる大事な仕事。保育士の処遇の改善はもちろん必要ですが、それが利用者の犠牲の上に成り立つことのないよう、関係機関に働きかけていかなくてはなりません。

保育協会札幌支部役員との意見交換・船橋参議院議員と

民間学童保育の関係者の皆さんと積極的に意見交換

市民の健康とインバウンドに貢献 札幌市調理師団体連合会(六業種十団体)

札幌市の観光客の入込数はコロナ禍前、1550万人を超えようとし、そのうち外国人宿泊数は260万人に近づこうとしていました。当時、札幌市の観光消費額は4083億円と言われ、その波及効果は計り知れないものがありました。

私が会長を務める札幌市調理師団体連合会では、毎年市民の皆さまをホテルにお迎えして**健康料理の試食会と作り方などを紹介させていただく「地産地消・健康料理フェスティバル」を実施しています。**昨年、一昨年はコロナ禍のためあえなく中止。しかし、今年(令和4年)9月20日は、例年の半分の規模ではありますが、3年ぶりに実施することができました。今年は札幌パークホテルの舟橋総料理長にお願いをし、食材や調理に工夫を凝らし、栄養バランスに配慮した西洋料理のコース。また、**午前の部では食品衛生や栄養に関する講演会を開催し、今回のテーマは「人生100年!健康長寿は食事から」そして「安全・安心な食のまち・さっぽろ推進事業」。**確かに食は生命や健康を維持する活力の源です。

札幌市東区といえばタマネギの「札幌黄」ですが、4年前の第27回にはこの札幌黄を使った料理を紹介し、大変好評でした。

調理師の皆さんとともに、**新鮮な北海道・札幌の食材を十二分に生かした健康料理を紹介して市民の皆さんの健康な食生活をサポートをするとともに、**道内、道外、海外の観光客の皆さんに満足していただける料理を提供し、**札幌の食のブランドを高め、経済の活性化に貢献してまいります。**

札幌調理師団体連合会の会長として市民の健康づくりに尽力

すずき健雄(けんゆう)は

こんな夢を追い続けています

●創成川通アンダーパス化

平成21年完成。
交通渋滞の緩和と創成川東側の活性化

●栄町バスターミナル

平成26年、
地下鉄栄町駅交通広場供用開始

●東雁来第2区画整理事業

平成30年度完了
新たに生まれる課題にもしっかりと取り組んでまいります

●苗穂駅周辺まちづくり

新苗穂駅・自由通路・南北駅前広場等、全面供用開始となっていますが、苗穂駅連絡通の一部や踏切廃止等、残っている部分しっかりと見とどけます。

●元町まちセン前広場

元町連合町内会の皆様の要望で、まちセン前を交流広場として開放。花壇のための水道設備を整備。今後も地域の要望に添えるよう頑張ってまいります。

●札幌都心で再開発事業続々

2030年度の北海道新幹線の札幌延伸を見据えた、道都の玄関口にふさわしい札幌中心部をつくるため、民間投資を活用した再開発事業を積極的に展開していきます。約1,500億円(市負担額約130億円)を誘発し、都心周辺のまちづくりで札幌の魅力がさらにアップ!

●政令都市で市立博物館がないのは札幌市だけです。「自然系博物館」を

さっぽろに、大人も子どもも楽しめ、観光の目玉となる体験型博物館が欲しい。1期目の24年前から、全国の先進的な取り組みをする博物館を視察するたびに、私はそう感じてきました。

子どもたちが発掘された化石や恐竜の骨に実際に手を触れたり、先端技術を駆使した面白い展示を見ることによって創造性が育ち、未来の科学者や歴史研究者を志すことも。

ベッソノワさん また笑顔を見せてください。

2022年2月24日、ロシアの侵攻で始まったウクライナとロシアの戦闘は8カ月以上が経過する今、ますます激しさを極めています。

私が会長を務めるモエレ新体操クラブで、ウクライナ・キーウ出身のアンナ・ベッソノワさんを講師に迎え、子どもたちのための新体操教室を開催したのは2017年9月のこと。

ベッソノワさんは2004年アテネと2008年北京で銅メダルを獲得した世界的アスリートですが、笑顔を絶やすことなく、子どもたちに丁寧な指導をしてくれたことを思い出します。

ベッソノワさんが現在どうしているのか気になっていましたが、アメリカのフロリダ州で子どもたちのための新体操教室を開いていることがわかりました。ご両親からは、祖国が破壊されていく非常に恐ろしい映像が送られてくるようです。そんなウクライナで練習を続けている多くの選手たち。激戦地のマリウポリでは、将来を期待された11歳の新体操選手が空爆で命を落としたということです。

戦争が一日も早く終結することを祈るほかありませんが、今の私たちにできることは避難民の人道的支援。国も積極的な受け入れを表明しています。日本を取り巻く安全保障環境を考えてもウクライナは他人事とは思えません。人道支援の輪を広げていく必要を痛感しています。

札幌市の今冬の除排雪の対応

- **予算**
  R3当初予算214億円(決算額314億円)
  →R4当初予算216億円+3定補正35億円=252億円
- **路肩の狭いバス路線の排雪強化**
  強化延長R3 69km→R4 92km(23km増)
- **歩道対策路面強化**
  強化延長R3 192km→R4 256km(64km増)
- **雪堆積場**(公共専用と一般受け入れ用を合わせた総数)
  R3 75カ所→R4 80カ所(5カ所増)
- **一般受け入れ雪堆積場の週休日導入**
  R3 週休日なし→R4 週休日あり
- **大雪対策**
  今冬より積雪深や気象状況、除排雪作業の進捗状況などのフェーズに応じた対策を実施
  【フェーズ1】運搬排雪の前倒しと強化
  【フェーズ2】応援等による排雪強化
  【フェーズ3】生活道路の緊急排雪

令和3年度冬、東区の累計降雪量は545cmと前年比43.7%増の記録的な大雪に見舞われました。大雪時の抜本的な対策を確立するとともに、地域性を考慮した改善を求めています。

ハッチふれあいフェスティバル

コロナ禍に入ってから相次いで中止されていた地域のお祭りを3年ぶりに復活させようとする動きがこの夏から、東区のあちこちで出てきています。

8月27日と28日、栄町中央商店街ハッチロード主催の「ハッチふれあいフェスティバル」にお邪魔しました。広々とした日の丸公園に、焼き鳥、焼きそば、クレープ、タコスなどの屋台やキッチンカーが出現し、久しぶりに夏祭りらしい雰囲気を味わいました。子どもたち、赤ちゃんのいる家族連れ、学生のような若い人たちも多く、この地域のエネルギーと可能性を実感できました。

2020年、未知のウイルスの洗礼を受け、人気の絶えた灰色の街を思い出します。感染対策は必要ですが、人や地域が萎縮して活動が停滞すれば、みすみすウイルスの思うつぼという気もします。

制約があったとしても、みんなで楽しむ方法を模索することも大事ですね。

新幹線「新駅」で活気ある東区

2030年度の北海道新幹線の札幌延伸に向けて、JR札幌駅周辺の再整備が加速しています。創成川の東エリアでは札幌総合卸センター跡地(北6東2~4)、新幹線新駅との連携を強化し、道都札幌にふさわしいまちづくりを進めてまいります。

コロナ・物価高騰対策で経済再生

新型コロナウイルスへの対応はいまだ出口が見えない状況が続いていますが、新たなステージでの感染症対策を進めて、また、物価高騰や円安に苦しむ生活者、事業者への重点対策により経済の立て直しを図り、活力あるさっぽろ・東区の創生に向けて全力で取り組んでいきます。

丘珠駐屯地の皆様によって「空の玄関口」と平和が守られています。

丘珠駐屯地協力会会長という立場でさまざまな行事に参加しています。

丘珠空港は北海道・札幌の防災、経済、医療、観光、の重要な拠点です。そしてこの空港は北部方面航空隊員の存在なくしては成り立ちません。

全国でも有数の積雪寒冷地にある札幌飛行場の平均積雪量は596cm。これは新潟空港の7倍に当たります。丘珠駐屯地では11月から3月には除雪隊が組織され、24時間体制で飛行場内の除雪が行われています。また、毎年のように風水害、地震、火山爆発など自然災害に見舞われ、さらに近年はコロナ禍という地球規模のパンデミックに襲われ、自衛隊の活躍がなければ、私たちは一日たりとも安心、安全な日常は送れません。

丘珠駐屯地協力会は今後とも丘珠駐屯地の隊員が高い士気と誇りをもって任務にまい進できるよう、地域の皆様との懸け橋として尽力してまいります。